

平成 31 年

奥州市教育委員会会議録

第 4 回定例会 4 月 25 日招集

奥州市教育委員会

1 開会、閉会等に関する事項

開催日時 開会 平成 31 年 4 月 25 日（木）午前 10 時

閉会 平成 31 年 4 月 25 日（木）午前 11 時 17 分

開催場所 江刺総合支所 4 階 特別会議室

2 出席委員の氏名

1 番 田面木 茂 樹 委員（教育長）

2 番 吉 田 政 委員（教育長職務代理者）

3 番 高 橋 キ エ 委員

4 番 及 川 憲太郎 委員

5 番 藤 田 登茂子 委員

3 説明のため出席した職員の職及び氏名

千田良和教育部長、千田淳一教育総務課長、千葉重徳学校教育課長補佐、
千葉達也学校教育課主幹、鈴木常義歴史遺産課長、千葉直樹協働まちづくり部生涯学習スポーツ課長補佐

事務職員出席者：菊池長教育総務課長補佐

4 本日の会議に付した事件（議事日程第 1 号）

第 1 委員の議席の決定について

第 2 会期の決定

第 3 教育長報告 (1) 奥州市教育委員会の所管に属する附属機関の平成30年度
下半期における審議等の状況について
(2) 平成31年度小・中学校学級編制について
(3) 平成31年度幼稚園学級編制について
(4) 平成31年度保育所入所状況について
(5) 平成31年度幼保連携型認定こども園学級編制について
(6) 平成31年度教職員定期人事異動について
(7) 生徒指導について

第 4 議案第 1 号 奥州市奨学生選考委員会委員の委嘱に関し議決を求めること
について

第 5 議案第 2 号 指定有形文化財の指定に関し議決を求めることについて

5 会議の概要

会議に先立ち、平成 31 年 4 月 1 日より任命された藤田登茂子委員の紹介と挨拶

開会、会議成立宣言、委員の議席の決定、本日の会議日程について「議事日程第 1 号」により進めることを宣言、秘密会とする議決（教育長報告「(7) 生徒指導について」）、秘密会とした教育長報告「(7) 生徒指導について」は、学校ごと又は児童生徒の個々の状況に関わらない部分のみを公表することの議決、議案

の審議

第1 委員の議席の決定について

委員の議席は、奥州市教育委員会会議規則第4条の規定により、教育長が会議に諮って定めることとされている。

田面木教育長：これまでの議席については、慣例により教育長を1番、教育長職務代理者を2番、3番から5番については在任期間が長い委員を3番議席としていた。これに倣い、1番議席を田面木教育長、2番議席を教育長職務代理者の吉田委員、3番議席以降は在任期間が長い委員から順に指定することとし、3番議席を高橋委員、4番議席を及川委員、5番議席を藤田委員に決定したいが、異議はないか。

全員異議なし。教育長提案のとおり議席を決定。

第2 会期の決定について

本日1日と決定。

第3 教育長報告

(1) 奥州市教育委員会の所管に属する附属機関の平成30年度下半期における審議等の状況について

田面木教育長が資料に基づき一括して説明。

【要旨】

- ・ 平成30年度上半期の状況については、昨年10月の定例会において報告しているが、今回の報告は、同年度下半期における各附属機関の審議内容等についてお知らせするものであり、付議案件及び審議の状況、また会議における提言の概要について、資料に示したとおり報告させていただく。

①奥州市奨学生選考委員会について千田教育総務課長が、②奥州市学校給食運営協議会について千葉学校教育課主幹が、③奥州市文化財保護審議会及び④奥州市牛の博物館協議会について鈴木歴史遺産課長が、⑤奥州市社会教育委員会及び⑥奥州市立図書館協議会について千葉生涯学習スポーツ課長補佐が詳細を説明

【質疑等】

吉田委員：牛まつりでは、今まで食べ物のテントしか並んでいなかったが、牛の博物館のテントがあり、子ども達が小物を作っていた。このような取り組みは良いと思った。

高橋委員：奥州市立図書館協議会の審議などの結果②に市内の小学1、2年生の全児童が図書館を見学できるような機会を設けてほしいとあるが、昨日、

胆沢の教振の会議（胆沢教育振興運動推進協議会総会）に出席した際に、共通テーマである読書週間の定着に関連して図書館からの実績報告があり、胆沢図書館から胆沢地内の幼稚園及び小学校の低学年が見学をしているという実績が報告されていた。他の地域でも幼稚園や小学校低学年の見学について、子どもが読書に興味を持つきっかけにもなり、学校と連携してぜひやってほしい。

千葉生涯学習スポーツ課長補佐：胆沢図書館の実績を持って全市に広げてほしいというご意見だったと思う。読書週間などを活用し定着できるように取り組んでいきたい。

及川委員：学校運営給食運営協議会の審議等の結果に、給食費の金額について具体的な検討を始めるとあるが、金額の検討は今後の社会情勢によって変わってくる部分があると思うので、消費税の値上げなどを考慮するなどして、柔軟に対応してほしいと思っている。

千葉学校教育課主幹：昨年中から県内他市の状況を確認しながら進めている。テレビや新聞報道でもあるが、カロリー不足の課題もあり、予算を充分確保しなければならない。32～33年度に見直しの自治体も多々ある。また、消費税が10%に上がった場合に食材費の高騰も踏まえながら、どの程度が適正なのかを31年度中に検討していきたい。

教育長：奥州市の給食費は、県内では一番日数が少なく一番安い状況となっている。授業日数が増えていく可能性があり、合わせて給食の回数が増えていく。それと同時に消費税の10%を加味して、31年度に検討し、32年度から上げたいと考えている。

「(2)平成31年度小・中学校学級編制について」から「(6)平成30年度教職員定期人事異動について」まで、一括して説明。

(2) 平成31年度小・中学校学級編制について

詳細について、千葉学校教育課課長補佐が資料に基づき説明。

【要旨】

- ・ 小学校の学級編制について。児童数の合計は5,516名で、昨年度から162名減っている。衣川小と衣里小を合わせると165名なので、この2つの学校分の人数が減ったことになる。人口減、子どもの数の減少の傾向は、今後も続くものと思われる。
- ・ 単式の学級数が209学級で、昨年度に比べて11学級減となった。単式学級は、国の基準で1年生が35人学級、県の基準は昨年度までは2年生から5年生までが35人学級だったが、今年度より6年生も35人学級となった。しかし、先程ご説明申し上げた児童数の減により、学級数も減少となった。
- ・ 複式学級は11校に22学級だった。昨年度は10校、17学級だったので、1校、5学級増えている。新たに伊手小で複式学級が2学級でき、玉里小と胆沢愛宕小で複式学級が増えている。この複式学級の増加にも児童数の減少が顕著に表れている。この11校に対し、県から小規模校支援のための常勤講師が1校、すこやかサポートの非常勤講師が7校に配置されている。残り

の3校に対し、市として小集団指導対応の非常勤講師を2校に、教員免許を持つ特別支援教育支援員を1校に配置しました。これにより、複式学級のあ
る全ての学校の教職員数を増やし、複式学級を持つ教員の負担軽減を図るこ
とができた。

- ・ 特別支援学級の数 は 49 学級で、昨年度より 4 学級増えている。これは、
対象児童の卒業により廃止となった学級が 2 学級あった反面、特別支援学級
の新設が 5 校、在籍児童の増加によって学級増になった学校が 1 校となった
ため、(-2+6) 4 学級の増となったもの。特別支援学級に在籍する児童数も、
昨年度は 120 名だったが、今年度は 127 名で 7 名増えており、全体の児童数
が減少している中、特別支援学級の児童数は増えているので、特別な支援が
必要な児童の割合が高くなっている (2.3% (昨年度 2.1%))。市として
は、特別支援教育支援員を増やして対応している。
- ・ 中学校について。「生徒数の総計」は 2,910 名で、昨年度から 39 名の減で
す。ちょうど 1 学級分の生徒数が減少した。単式の学級数は 93 で、昨年度
に比べ 2 学級の減、田原中の閉校により複式学級は解消となりました。学校
ごとに見ると、各学年 3 学級以上の学校が 6 校ある反面、学年 1 学級の学校
が 3 校 (江刺南、江刺東、衣川) あり、学校規模の差が大きくなっている。
これにより、学年 1 学級の学校では部活動の選択肢が狭くなるなどの問題も
出てきている。
- ・ 特別支援学級の数 は 19 学級で、昨年度と同数です。内訳は、対象生徒の
卒業による廃止が 2 校 (江刺東、衣川) あったが、新設が 1 校に 2 学級 (江
刺南) あったので、増減なしとなった。特別支援学級の生徒数は 63 名で生
徒数全体に占める割合は約 2.2% となっている。市としては、小学校同様、
特別支援教育支援員を増員している。

(3) 平成 31 年度幼稚園学級編制について、(4) 平成 31 年度幼保連携型認定こ
ども園学級編制について及び(5) 平成 31 年度幼保連携型認定こども園学級編
制について

詳細について、千葉主幹が資料に基づき説明。

【要旨】

- ・ 幼稚園学級編制について。公立幼稚園の状況については、平成 29 年度か
らの入園状況をご覧の通り入園児が減少している。平成 30 年度 304 人に対
し、平成 31 年度は、252 人で 52 人の減少となっている。学級編制ですが、
前沢の東幼稚園が複式学級。胆沢は、小山西幼稚園が複式学級。衣川は、衣
里幼稚園が複式学級の状況となっている。なお、上姉体幼稚園については、
入園児がおりませんので、休園の状態となっている。
- ・ 保育所、認定こども園の入所状況です。いずみ保育園ですが、定員が 60
人。うち、水沢地域が 47 人、江刺からも 2 人入っています。市外からの入
園調整分ですが、いずみ保育園はありません。定数に対して充足率が
93.3% となった。
- ・ 「奥州市内の幼稚園、保育所、認定こども園の入所状況等」ですが、まず
は幼稚園から。公立 13、私立 1 の 14 施設となっている。上姉体幼稚園は、

休園です。幼稚園のニーズは低下しており、定数に対し、入園児は 30%を切っている状況。

- ・ 次に保育所です。公立 8、私立 15 合計 23 施設です。定数 2,015 人に対し 1,822 人、4 月時点で、90%を超える入所であり、今も随時途中入所があることから、ほぼ 100%の状況であり、年度途中には 100%を超え、待機児童が増える状況となる。
- ・ 次に、認定こども園。公立 2、私立 11 合計 13 施設です。姉妹幼稚園は、平成 31 年度から、認定こども園に移行して、運営をしている。定数 1,235 人に対し、1,034 人、4 月時点で、84%を超える入所であり、今も随時途中入所があるので、ほぼ 100%の状況であり、保育所同様に年度途中には、100%を超え、待機児童が増える状況となる。
- ・ 各地区の待機児童の状況は、4 月 10 日時点での速報値で、水沢地域は 18 人、江刺地域はなし、前沢地域は 5 人、胆沢地域は 2 人、衣川地域はなしの状況。

(6) 平成 31 年度教職員定期人事異動について

詳細について、千葉学校教育課課長補佐が資料に基づき説明。

【要旨】

- ・ 退職者数は 39 名で、昨年度 (43) より 4 名の減です。異動者は、(1) の奥州市内での異動が 44 名で、昨年度 (49) より 5 名の減で、ほぼ例年通りの数となった。(2) の他市町村への異動 (転出) は 67 名で、昨年度 (52) より 15 名の増となった。増加した要因の一つとして、副校長の異動が多かったことがある。(3) の他市町村からの異動 (転入) は 66 名で、昨年度 (82) より 16 名の減となった。副校長の転入が 16 名と多いのが特徴です。新規採用は 30 名で、昨年度 (22) より 8 名増えている。今年度は、全ての中学校に新規採用の教員が入っている。管理職等への昇任は、校長に 2 名、副校長に 5 名、主幹教諭に 6 名、事務長に 1 名の合計 14 名の昇任があり、全体では昨年度とほぼ同数の昇任となった。以上により、全体の異動総数は 246 名で、昨年度に比べ 2 名の減となった。退職を含めた「出」が 106 名、新採用を含めた「入り」が 96 名で、教員数は昨年度に比べて 10 名の減となり、特に小学校で欠員状況が若干増えている。

【質疑等】

吉田委員：再任用が多くなっているが、今年状況をお聞かせください。

田面木教育長：初任者は 30 名で例年になく多く、全ての中学校に入った。再任用は増えてきている。再任用はフルタイムと 29 時間とあるが、フルタイムの方が少ない。29 時間の方は少人数や、初任者研修指導へ配置する。フルタイムの分が、正規の加配の数から減じられている。問題は、担任が持てない方がかつてはいたが、今は担任を持たなくてはならない状況になっている。フルタイムでぜひきてもらって、担任を持ってもらうよう、県としてもそのように進めているところ。現在、県南教育事務所管内で再任用を希望した方で、一関からの来られた方が数名いる。将来的には再任用が増えていき、29

時間希望の方が増えると入れなくなってくる恐れがある。そうすると再任用の方の地区への異動が出てくる。再任用が増えることで正規の方が減ることが課題となっている。40代の方は、だまっていっても管理職になると予想される。

吉田委員：このほかに講師などもおり、配置が大変だと思う。

田面木教育長：この資料は正規のみで、加配の分は複式学級には一人ずつ配置することになっている。県加配と市加配があるが、市は34～35名程度入れている。要求がなされており対応しなければならない。配置には頭を痛めている。お願いする方がいなくなっている。複式の支援をやってほしい、加配でお願いしますとか、適用支援相談員をやってほしいとか、あるいは特別支援をやってほしいとか、そういう方がいなくなっている。そのほかに、国や県から、部活動指導員の指導がありお願いしているが、若い方は部活動指導員だけでは給料が低すぎるので、色々掛け持ちをしてお願いしているところ。

及川委員：学級編制のところで小学校の備考欄のところに、大田代小学校に柔軟な学級編制とあるが、どのような意味なのか教えてほしい。

田面木教育長：複式学級は下から組んでいく。1-2年、3-4年。ところが大田代小学校は2-3年生が無いが、5-6年で一つの学級を組んでいる。これは学校長の考えにより届け出でやっているもの。

江刺東中学校1年生が37人だが、本来1学級は35人なので、2学級が必要だが、江刺東中学校の校長先生は1学級とした。理由は、ここに集まってくる生徒は木細工など小さい学校から来ており、30人以上の学級を経験したことがないから集団活動をさせたいという意図がある。ただし、定数配置は2学級分にしている。柔軟な学級編制はそうようにしている。

(7) 生徒指導について

※ 説明要旨及び質疑等の内容は非公開。

以上で教育長報告を終わる。

第4 議案第1号 奥州市奨学生選考委員会委員の委嘱に関し議決を求めることについて

千田教育総務課長が議案を朗読、田面木教育長が提案理由を説明し、補足説明を千田教育総務課長が行った。

【提案理由】

- ・ 議案第1号については、平成32年5月11日をもって任期が満了となる奥州市奨学生選考委員会委員のうち人事異動があった委員について、別紙名簿のとおり委嘱しようとするものである。

【補足説明】

- ・ 平成32年5月11日までの任期で委嘱していた奥州市奨学生選考委員会

委員のうち、選出区分が「市内の高等学校長」であった方々について、人事異動があったことから、後任の委員を委嘱しようとするもの。

質疑及び討論なし。

採決の結果、原案のとおり承認することに全員異議なし。

原案可決。

第4 議案第2号 指定有形文化財の指定に関し議決を求めることについて

千田教育総務課長が議案を朗読、田面木教育長が提案理由を説明、補足説明を鈴木歴史遺産課長が行った。

【提案理由】

- ・ 議案第2号については、「木造阿弥陀如来坐像」は、平安時代後期にさかのぼる貴重な作であり、彫刻史及び文化史上重要と認められることから、奥州市文化財保護条例 第5条第1項に基づき、『指定有形文化財 美術工芸品 彫刻』として指定しようとするものである。

【補足説明】

- ・ 今回指定します『木造阿弥陀如来坐像』（もくぞう あみだによらい ざぞう）は、カツラ材製と見られる一木造の古様な様式と12世紀の仏像に通じるやや猫背気味で面部下方を心持前に出す様式を併せ持つ木彫仏（もくちようぶつ）で、11世紀後半から12世紀頃の制作と見なされる。
- ・ 大きさは、像高 73.0cm、肩（かた）張（はり）36.0 cm、膝（ひざ）張（はり）54.5 cm、座（ざ）奥（おく）38.2 cmで、頭体幹部を左肩及び左腕を含んで一材製とし、本像の内（うち）割り（ぐり）のない一木造という造像法は、中尊寺に現存する諸像の造像法とは異なっていることから、中尊寺とは系統を異にする環境においての制作事情を想定させるもの。
- ・ つきましては、平安時代後期にさかのぼる貴重な作であり、彫刻史及び文化史上重要と認められることから、有形文化財に指定し、保存しようとするもの。
- ・ なお、指定に関しては、3月26日に開催された奥州市文化財保護審議会に諮問し、指定が妥当との答申をいただいております。

質疑及び討論なし。

採決の結果、原案のとおり承認することに全員異議なし。

原案可決。

閉会